

趣意書

～何か魅力ある場所を目指して～

当作業所では一人一人が目的を持ち、ただ与えられた物事だけで満足するのではなく、自分の考えをもとに物を作り出す、物事を考える力を養う作業・訓練を行いたいと思います。その人の存在がこの社会の中で埋もれてしまわないように、職員はもちろん、利用者自身も考えていかなければなりません。作業所での処遇は公的施設に比べると十分とは言えませんが、それだけ自分たちがおかれている現状を肌で感じることができます。守られていることに浸ってしまわないで、利用者には自分たちの力でどのような可能性があるのかをある程度考えてもらいたいです。

重複障害を持ち、作業や自分の意見を主張することが困難だと思える人には、作業所に来ることによって、生活のリズムの安定と健康維持を目的としています。しかし現状維持で満足するのではなく周囲の人々からの、個々の生活年齢に応じた声かけや、その人自身が周囲の状況を見て、聞き、少しでも精神的に成長して欲しいという願いがあります。

作業所職員の仕事として日常の介助は言うまでもありません。一番重要なことは、一人一人の状態を把握し、世界を広げる手助けをすることだと思います。利用者にいい影響を与えるために、職員が社会の中で仕事をしているという自覚を持ち、様々な事を吸収し伝えて行くことです。そのように自覚を持てば利用者の選択肢が増え、社会への一つの窓口を見つけることができるのだと思います。

作業所の中だけの人間関係では小さな世界に止まってしまいます。あらゆる人に来てもらうことが必要です。しかし、何か魅力あるものがないと人は集まりません。その何か魅力あるものを作るために作業所一同努力していく所存です。

こういった考えをご理解戴き今後とも皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い致します。作業所も新たにスタートしたばかり、職員も新米職員と、たよりないところ、不手際もあるかと存じますが、よろしくご指導、ご鞭撻のほどを重ねてお願い申し上げます。

1997年3月 吉田修一